

主体的に問題の解決に取り組む児童の育成

ーユニバーサルデザインの視点を生かした算数科の授業を通してー

伊達市立柱沢小学校 教諭 澁谷 宏子

1 研究の趣旨

教育の今日的課題や本校の児童の実態から、児童に課題追究力を積極的に育てていく必要がある。主体的に問題の解決に取り組む児童を育てるためには、全ての児童が「わかる」「できる」実感を味わえる授業づくりをしなければならないと考える。

そこで、本研究では、ユニバーサルデザインの3つの視点（視覚化・焦点化・共有化）を生かした授業のあり方を算数科の授業実践を通して検証していくことで、授業の質的向上を図りながら、主体的に問題の解決に取り組む児童を育てたいと考え、以下の仮説を設定した。

算数科において、どの子も楽しく「わかる」「できる」授業にするために、ユニバーサルデザインの3つの視点、視覚化・焦点化・共有化を生かした授業を積み重ねれば、主体的に問題の解決に取り組む児童を育てることができるであろう。

2 研究の概要

- (1) 身に付ける力の明確化と数学的活動の工夫
 - ① 単元で身に付けさせたい力と本時のねらいの明確化
 - ② 児童の実態や単元をつまづきの把握と対策
 - ③ 子どもたちの思考を大切にする数学的活動の工夫
- (2) ユニバーサルデザインの視点を生かした支援の工夫
 - ① 視覚化を図る工夫
 - ② 焦点化を図る工夫
 - ③ 共有化を図る工夫
- (3) ICT機器の活用

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - 学力向上学級プランを作成し、重点単元と身に付けさせたい力・態度を明らかにすることで、指導内容の焦点化が図られた。
 - 視覚化・焦点化を図った授業をすることで、算数が苦手な児童でも、見通しをもって自力解決に取り組むことができた。タブレットを使つての共有化によって、児童の意欲を高め、主体的に課題に取り組む姿が見られた。
 - 学習支援ソフトのメタモジクラスルームは、自力解決、話し合い、振り返りなどに有効であった。eライブラリを使ったドリル学習は、習熟・定着に役立った。
- (2) 今後の課題
 - ICTを活用して有効だった場面と、紙媒体などを使った（ICTを使用しない）方が有効な場面を、今年度の実践をもとに明らかにしていき、さらなる活用を図っていく必要がある。
 - 今後も児童の実態を把握し、ユニバーサルデザインの視覚化・焦点化・共有化の視点を十分に生かした授業づくりについて教材研究を重ね、教師のかかわりについて精選していかなければならない。